

尾原ダム（さくらおろち湖） のスポーツ活用

ートライアスロン競技を中心としてー

自己紹介

- 島根県トライアスロン協会副会長(強化・育成担当)
- さくらおろち湖スポーツイベントディレクター(トライアスロン、トレイルランニング、ロゲイニング)
- ネクストパワー代表



自身と尾原ダム(斐伊川)との関わり合い

- 斐伊川下流域に在住
- 斐伊川中流域をサイクリング、ランニング
- 斐伊川上流域で登山、トレラン、溪流釣り、植林



さくらおろち湖とトライアスロン

- そもそもは自転車競技から
- 練習会の開催(2014年～)
- トライアスロン大会(スタンダード:51.5km)を開催(2016年～)
- 中国ブロック選手権(スプリント:25.7km)を開催(2017年～)
- 合宿(中国ブロック、島根県単独など)を開催
- アジア合宿(2020年4月)はコロナ禍で未遂



トライアスロン大会

- さくらおろち湖スプリントトライアスロン大会（2016年より開催）
 - 6月開催のエリート大会
 - 日本選手権中国ブロック代表選考
 - 国体予選会（中国5県）を兼ねる
 - ジュニア部門（U15）、ミックスリレーを併設
- さくらおろち湖トライアスロン大会（2015年より開催）
 - 9月開催の一般（エイジグループ）対象の大会
 - 2022年は「さくらおろち湖トライアスロンフェスティバル」として開催



今後の発展に向けて(その1)

- キッズ世代の取り込み
 - 奥出雲町・雲南市の幼稚園で展開しているランバイク愛好層を取り込みイベントに繋げることで保護者層も地域に引き込む
 - トライアスロンフェスティバルとして取り組む(2022年～)
- 地域の特色を活かした新大会の創設
 - エイジグルーパーはより長い距離へ挑戦する指向がある
 - ミドル(S2km、B90km、R21kmなど)の距離
 - 奥出雲・雲南の鉄の郷(糸原記念館、可部屋集成館、菅谷たたらなど)を巡る鉄人のためのトライアスロンコースの設定



今後の発展に向けて(その2)

- 地域の特色を活かした新大会の創設
 - 海外からの参加者も呼び込める大会
 - スイムの後はMTB,トレランと繋ぐ、クロカンのコース(Xテラ)の設定
 - 世界大会(10月ハワイ)の予選会
 - ダム湖で泳ぎ、トレランコース(奥出雲エリア)をMTBで漕ぎ、雲南エリアのトレイルを走る



お願い

- 登山路、トレイルの発掘、整備・維持
 - 整備したコースの有効活用：地域住民の健康維持にも活用
 - 歴史の掘り起こし：殿さま街道の活用
 - 有害鳥獣対策：人が里山に入り込む機会を増やす
- 利用手続きの簡素化
 - 国・県・市・町と行政が多く絡むため大会利用、合宿・練習会利用時に手続きが煩雑であること



終わりに

- 水を溜める以上に、人を繋ぎ人を溜めるダムへの発展を

